

職員による自己評価

A環境面

- ・ 児童の人数に対し適切な広さである
仕切りがあってもよい
- ・ 職員配置は概ね適切
- ・ バリアフリーは不十分だが現状問題はない

B児童への支援内容

- ・ レクの立案を常に行い活動が固定化されないように様々な工夫を行っている
- ・ 児童の状況に合わせた支援が行えている
- ・ 味覚狩りや事業所全体のイベントが行えている

C関係機関との連携

- ・ 地域交流などは現状中々行えていない為今後の課題である
- ・ 学校や連携機関とは必要に応じ連携が取れている

D保護者への説明責任

- ・ 送迎時や面談にて日々の活動内容、相談にて信頼関係を築いているまた電話やLINEにていつでも質問や説明が出来る環境づくりを心掛けている
- ・ 保護者会は出来ていない

E非常対応

- ・ 非常時対応のマニュアルがあるが定期的に周知し丁寧に説明していく事が必要

保護者による評価

A環境面

- ・ 活動スペースが十分に確保されている
- ・ 職員の異動があると不安になる事もある
- ・ 職員配置は適切である
- ・ バリアフリーについてはわからない

B児童への支援内容

- ・ 子供の特性をよく理解して見て頂けている
- ・ 楽しみに通っている
- ・ 活動に工夫が感じられる
- ・ 放課後児童クラブなどとの交流は必要ないと考えます

C事業所からの情報発信

- ・ LINEにて活動の様子を伝えてくれる
- ・ なくし物やケガ等でのやり取りの中で結論、最終報告までして欲しい
- ・ 父母会は必要ないと思います

D非常対応

- ・ 災害時などの状況に応じた避難場所を詳しく知りたい

事業所内での分析

【共通点】

- ・ 指導訓練室のスペースはてきせつである
- ・ プログラムに関して固定化されないよう児童の特性に合わせた支援が行えている
- ・ 非常時の対応について定期的な周知をしていく必要がある

【相違点】

- ・ 大きな相違点はないがより一層のきめ細やかな支援サービスを行っていく

分析・検討してみて…

事業所内の強み

- ・活動スペースの充実
- ・活動プログラムの内容、創意工夫
- ・職員配置の充実

事業所の改善点

- ・非常災害時における事業所としての対応の周知徹底

事業所内の改善への取り組み

- ・非常災害時では日々の練習や想定を常にしていく事が実際の被災時における取り組みとして必要なことであることを改めて再認識し安心してご利用いただく為に日頃よりこういった形で発信していく事が事業所としてよいか考え周知し全員が同じ行動を取れるよう話し合い実行できるように努める。
- ・日々の様子などLINE、SNSで引き続き継続して情報の発信をして安心して過ごして頂けるようにしていく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・今回頂いた意見を参考にして取り入れた意見を一時的ではなく継続的に実践をしていく事が重要であり、職員間で話し合ったことを共有し今後もより一層のサービスを提供していくという事を再認識できた

事業所名 キッズわんデイサービス並木

担当者 平林 元